

令和5年度 第3回平田地域協議会会議録（要約）

日時	令和5年7月24日（月）午後1時30分～午後4時				
場所	平田総合支所 302号室				
出席委員	13名				
	1号委員	長堀 恵理	佐藤 芳紀	小野寺孝延	佐藤 恭子
		佐藤 善仁	今井さち子	丸山 清	枝 春男
		加藤佐和子			
	2号委員	石黒 由香	佐藤 正一	須田 祐司	久松 由華
欠席委員	2名				
	1号委員	田中井広志	前田 恵次		
酒田市出席者	酒田市教育委員会教育次長		池田 里枝		
	酒田市教育委員会スポーツ振興課長		齋藤 聡		
	酒田市教育委員会スポーツ振興課長補佐		土門 将志		
	教育委員会スポーツ振興施設係兼平田総合支所地域振興係調整主任		阿部 功		
	平田総合支所長		佐藤まゆみ		
	平田総合支所長補佐兼建設係長		佐々木 豪		
	平田総合支所長補佐兼産業係長		進藤 貴		
傍聴者	なし				
議事日程	1. 開 会				
	2. あいさつ				
	3. 会議録署名委員の選任				
	4. 報告				
	（1）令和5年度末での体育施設の廃止について				
	5. 協議				
	（1）地域振興について（意見交換）				
	（2）その他				
	6. その他				
	7. 閉 会				

【協議会の概要】

令和5年度末で廃止になる体育施設の報告を受けた後に、第2回目に引き続き地域振興についての意見交換を行なった。「除雪の問題」、「軽トラ市」、「地域と小・中学校との相互交流」の3点が出され、次回に繋ぐことにした。

【会議録（要約）】

1. 開会

- ▶事務局より開会と欠席委員2名の報告

2. あいさつ

- ▶石黒由香会長挨拶

3. 会議録署名委員の選任

- ▶会議録署名委員はこれまでどおり名簿の順番に指名することとし、佐藤芳紀委員を指名した。

4. 報告

(1) 令和5年度末での体育施設の廃止について

- ▶池田教育委員会教育次長が資料を基に説明

○丸山清副会長

資料にある利用者数が少ない人数で載っているが、これはリフト券を購入した数であると理解している。しかし、リフト券を購入しなくてもそり遊びで去年冬、正月から使われているはずである。土日のたびにスキークラブや有志の方がそり遊びをさせるために上がってきてそこで遊んでいる実態がカウントされていないので、考慮してほしいと思う。また、ちびっこグレンデの壊れている所を修復する方法というのは具体的にどのようなことを考えているのか教えて頂きたい。最後に、使えなくなったスーパーハウスがグラウンドの片隅に取り残されているが、屋根が抜けてカビが生えていて使えない状態である。スポーツ振興課施設係の方は十分に分かっていることだと思うが、小学生の子ども達も中に入れない。そういったことで、更地にして欲しいというのが田沢新田という地元の意見である。その隣に使えなくなった遊具があり、黄色の立入禁止のテープがぐるぐる巻かれていて、子どもにしてみれば遊べる遊具があるのに遊べない。親が横を向いている間にするすると子どもが入って行ってしまうことも見られるので、遊具は無しにして欲しい。一部は県の物だと思うので、県と折り合いをつけて頂いて、そういった危険箇所に関しては処置をして頂きたい。クラブに関してはここに書いてあるスキークラブという立場でお話をさせていただいた。目ん玉スポーツクラブという立場でもお話しさせていただいた。内容はここに書いておおりである。

○齋藤スポーツ振興課長

何点か質問を頂いたが、そり遊びの件は具体的にスキークラブの方からも、スキー場を廃止しても冬期間雪遊びが出来るようにとここに書いてある通り要望を頂いたが、詳細はまだ決めていないので、今後また協議するような形になる。

修復というのはコンクリートまで全部取りたいとは思いますが、予算が付く保障も無い。最低、人工芝のペラペラしている部分は取りたいと思っている。予算を要求しても付かないというのが現実である。ハウスにはスノーモービルを入れているがこの行先がまだ決まっていないのでそれが決まったらどういうふうにするのか、無くするのは一番いい話なので、無くする方向でいきたい。遊具に関しては県の施設と交流観光課の施設があるが、なかなか修繕できないというのがあってトラロープが張ってあって危ないですよという事になっている。今後修復するような計画が無いのであれば早々に協議していきたいと思う。

○丸山清副会長

ぜひ協議して、来春には無くなる訳なので、春までに教えて欲しい

○齋藤スポーツ振興課長

承知した。

○佐藤芳紀委員

これを廃止するという事はスキー場をまるっきり無くするという事か。違う用途に変えるということではなく、まるっきり無くするという事か。

○齋藤スポーツ振興課長

維持管理をしなくなる。ちびっこグレンデのコンクリート部分もみんな撤去できればその部

分も夏場の草刈等はしないので、自然の山に戻る。グラウンドはサッカーや野球で利用しているので、グラウンドについては残す。

○丸山清副会長

佐藤委員が言いたかったのは多分、管理を酒田市でなくて例えば平田のAという管理クラブみたいなところに管理を委託はしないのですかという質問ではなかったかと思うが、どうか。

○佐藤芳紀委員

それもひとつだが、違う用途に変える気が無いのであれば、山に戻すのであれば森の家だって除雪をしなくなるのではないか。松山スキー場までは除雪はするのではないのか。

○佐藤支所長

除雪はするし、森の家も駐車場までは除雪はする。

○佐藤芳紀委員

草だらけになったら誰も人なんて来なくなる。山に戻るのはすぐである。

○丸山清副会長

草刈りもしないということか。

○齋藤スポーツ振興課長

そうである。

○佐藤芳紀委員

次の事を考えて廃止すればよかったのではないか。

○齋藤スポーツ振興課長

グラウンドの部分はする。

○石黒由香会長

遊具とかあの部分はしないということではないか。

○丸山清副会長

県の施設が一緒に入り込んでいるので、遊具があるところ、駐車場の周辺の草刈りは、前にバターゴルフやったところの広場のほうの草刈り、それは県のほうで森林保全協会が木を切ったり草を刈ったりして春から秋まで一生懸命に草刈りしたり維持管理している。それも無くなるということか。それであれば今、佐藤委員が言ったように1年を待たないで草の山どころか木の山になるのではないか。

○佐藤芳紀清委員

スタートは県民の森だったが、平田は独自に付随してやったのだから、県に返還すればよいのではないか。県民の森にしてくれと。スタートは県民の森だったのだから、県民の森として一括で管理してもらえないかと県にお願いしてみればよいのではないか。スタートに戻ればよいのではないか。

○池田教育次長

今、交流観光課の方で、複合式の遊具を撤去出来ないかということで、県といろいろ協議しているところである。その際にここ全体が第2県民の森構想ということで、松山の外山を中心にやっていたということは伺っていたが、今、平田スキー場と眺海の森ちびっこゲレンデ、テニスコート、グラウンド全部合わせて森林保全協会さんで、年間約100万円位で綺麗にしてもらっていると思う。そのあたりはこれから県と協議して、どの部分まで整理、管理し続けていけるのかという事はこれから。

○佐藤芳紀委員

内陸にだけ県民の森があつて庄内に無いので県知事まで行ったのに、今更。

○小野寺孝延委員

構想的なものもあり、このなかに利用者の推移とある。仮の話でこれを維持するとなれば、採算ベースで維持させるための金額はどの位なものか。こういったものが出てくれば、結局利用する人がいない、いろんな施設があるが、その採算ベースとなる。これからみんな関わってくると思う、山居倉庫、観光地云々。どれだけ利用があるのかという感じであるが、船が来たら云々と言うが、どれだけ酒田にお金を落としてくれているのか。だから皆さん一生懸命にやっているのは分かるが、いろんな宿泊施設、それに関して民間企業との闘い、だから要は採

算ベースだと思う。何人の何百万だったらとれるよとか。ただ単に人が来ない、予算が取れないから潰していくのは簡単。でもかたや要望もある訳である。ただ方向性だけでなくこれだけの目標数値に関してやっていくのも1つの手だと思う。単に潰すだけでなく。自治会もそう。人がいないから予算がつかない、やる人がいない。いろいろ付随してくると思う。前回やったように。物事を考えるのであれば皆さん採算ベースは考えるのだと思う。参加者、入場者がこれだけいます。じゃあそういったものに対してどうしていくか。これまでをみると要望があって予算がついた。そういったこともあるのではないかな。

○齋藤スポーツ振興課長

具体的な人数までは無いが、平田スキー場については平日は営業しておらず、休みの日だけだが、中でも中学生以下についてはリフト料を減額しているの、ある程度大人の方が来ないと収益は上がらない。スキー人口が減っているのは承知している。合併前の旧酒田市にも東山に旧東山スキー場があって雪不足でできないということがあった。升田のスキー場も無くしたのでこの平田地区のスキー場と松山のスキー場と、近いところに2箇所あるということで、合併したので各地区に全部スキー場があるというのも大きな都市でもないの、最低1つでいいのであろうということで、利用人数のある松山は継続するが、平田については廃止しようということになったものになる。

○佐藤支所長

では、この件については廃止という事で進んでいくので、令和5年度をもって、いまのこの3つの施設は廃止になるので、ご了承いただきたい。

5. 協議

(1) 地域振興について（意見交換）

▶佐藤支所長が資料と意見交換の進め方について説明したあと、出席委員が前回と同じ2班に分かれて意見交換を行った。各班で出された概要を最後に発表した。

A班

2つの地域振興について話し合った。1つ目は除雪の問題がどうにかできれば住みよい暮らしが出来るのではないかとということだった。必要性は十分に市民にとって必要不可欠な問題である。本市が行わなければならない事業なのかについては、一部を関与せず運営できる事業なのではないかと考えた。平田地区だけでなく市全体を巻き込んで実行していければという事。持続性としては持続可能である、手段としてはSNS等でツアー等を企画して地域外の人を呼び込む。それによって継続的に実行できる可能性がある。最終目標は平田地域で暮らし続けるために真に必要なもので、安心して暮らしていけるまちにすること。

2つ目は軽トラ市ということで、田沢地区でも市場的なものをやっているという話があったが、年間契約ではなくて時々でもいいというラフな感じできるということで、好きな時に出せる。ニーズとしては反映しているのではないかと意見が出た。市が関与しなくても運営することが出来るのではないかとということだった。持続可能である手段として、毎回出さなくてもいいということ考えている。他のコミセンとの調整も取れ、拡大していけるという。最終目標は平田地域の資源を活かして人々の生きがいづくりに。高齢者が元気であるということ、最初の出資等もなく、やりやすいのではないかとということだった。

B班

前回B班は沢山の事が出たが、本当に地域振興として落とし込んでいくにはこれでないという事になった。平田に住んでいる人、平田の関係者、子ども、きょうだいが、「平田っていいところだよ」、「いいまちだよ」、「暮らしやすいよ」というのを体感できるまちだったらいいんじゃないか、地域振興になっているということなのではないかといった結論じみた話が出た。そのために今、我々が何に向かって何が必要なのか。今、相互交流が少ないと話題になった。コミ振、部落、コミュニティ、学校、いろいろあるが、相互的な交流が無いような気がする。それで出てきたのが今の10代、20代、30代、ここにいない歳の人達が積極的に出て来れないのはなぜか。ただ人材育成をしようと言っても、そういう機会を作りましようと言っている。そういう機会ってしてくれるのか、我々がしなければならないのか、といった悩みのものも出た。

1つ出たのは小学校、中学校まで落とし込んだ時に地域の先生、総合学習の時間でそういったことを話し合う、そこに我々が1人でも2人でも入り込んで生徒さんと一緒に10年後のあなたへのメッセージ的なものをまとめる会みたいなものがあると、それが子どもの脳裏にしっかりと残って子どもが20歳、30歳くらいになったら「ちょっとコミュニティのほうを手伝おうかな」とうまく結びつけばいいかなという話になった。そこは確かにそうだし、そこにコミュニティの会長さんや自治会長さん等から関与してもらえば、なお自分の土地で生まれた子ども達がどんなことを考えているのか等。そこで出て来た意見は「ああ、なるほどのお」と取っておくのではなく、2月の市長報告会の時に1つでも2つでも挙げていくとか。中学校で取り組めることは学校で取り組んでいく、平田地区で取り組めることは平田地区で取り組んでいくって結び付けていく活動が今、地域振興ということで大事なのではないかという話になっている。これをこのシートにまとめるのは難しい。ただ、こういったエッセンス、有効性、必要性は必要があるからやっている訳で、その辺のエッセンスをもりこめればと思っている。

○佐藤芳紀委員

だいぶ前に南平田小学校のPTAだったが、昔は南平田小学校に地域の先生というのが居たが、校長先生が変わるたびに教育方針が変わり、一貫性というのが無く、継続していかないと繋がらない。前は農家の先生やおばあちゃん達のさしこの先生等年配の人がきたが、30代、20代の人先生になると変わる。価値観が変わるのはいいことなので、是非やってほしい。

○石黒由香会長

去年だったか、南平田小学校の企画に呼ばれて「子どもたちが考える平田の未来」というプロジェクトに行った。県議会議員や神主さん、スーパーの社長等、いろんな職種・所属の人が集まって、子ども達が描く。例えば旧田沢小を子どもたちのあそび場にしたいとか平牧の肉を使ってこういう商品を作りたいとかいろんな発表を聞いた。そこで発表するだけではもったいないような企画ばかりで、そこを地元のいろんな企業と結び付けていけたら、本当の意味で、地域で子どもを育てるという事を思いだした。

○丸山清副会長

会社の社長が一人考えて出来ることではない。やれる引き出しとか伸びしろとかを受け止めてくれるような仕組みづくりがあるといい。

○枝春男委員

みんなを巻き込んでいかないといけない。例えば、呼ばれた人だけでなく自治会長や行政や皆を巻き込んでいかないと、なっていないものだと思う。

○石黒由香会長

以前のあすかブランドのようなものを子ども達が思っていて、スーパーさんは「商品化してみようか」という事も言っていた。「やってみようか」と言われると子どもたちの目がとてもキラキラと輝いた。本当に商品になるのであれば嬉しいと。

○丸山清副会長

先ほど出て来た軽トラ市というのは費用が掛からないし、ここは農業のまちで平らな田んぼもいっぱいあるし、農業のまちで軽トラと言えはいわゆる走るベンツである。コストもかからず、例えばイベント広場とかにずらっと並べて。面白い、すぐに出来るのではないかと思う。売る、売らないで法律とかもいろいろあるのだと思うが、いいと思う。面白いと思う。

○石黒由香会長

午前中、保健所の許可等についていろいろ調べた。生の野菜は全く問題なく売って良いとのことだった。加工については、委託して売るものダメで、それなりの加工の免許がないといけなかった。数年間の効力があるためには3万円ほどかかるようだった。本当にお小遣い稼ぎとかめんなたま畑に何万円も払うよりも、自分の山で採った山菜や野菜などをイメージしている。

○小野寺孝延委員

平田は農業と言ってもとても楽しく、私もよくめんなたま畑に行く。私も兼業農家だが、そういうのがあれば楽しみである。

○石黒由香会長

中学校の中庭でジャガイモや枝豆を植えたりして、売るスペースを提供できるというか。

小学生なども何かやっていたような気がする

○加藤佐和子委員

市役所で売ったりしている。

○石黒由香会長

それが地域の生きがいに繋がれば良い。

○小野寺孝延委員

質問だが、民業圧迫というのはどういう意味合いのものなのか。平田はイベントがいろいろあるが、単純に言えばいろんなイベントをやるときに、それにかかわる業者や会社に負担がかかるようなことはというような捉え方になるのか。

○佐藤支所長

そういう意味ではない。全て行政が行った場合の例として、イベントではないがタウンセンターに今ある筋力トレーニングルームがあるが、あぁいったものは民間でいろんなものが出来てきている。なので、民間で増えてきている中で行政がトレーニングルームをいつまでやらなければいけないのかということ、あとはそれを行政がやって安く提供することによって民業を圧迫しているという事は考えられないのか、そういうような考え方で民業を圧迫しているということがないのかと、そういうことである。

たいへん良い、いろいろな話し合いをして頂いたと思う。除雪の問題も本当に生活に係わる喫緊の問題だし、軽トラ市もあまり経費もかけずにやる人がいれば取り組めるのではないかと考えて聞いていた。B班のいろんな思いをずっと辿って行ってというところで、コミ振を関与してというところでも、まさに今、コミュニティ協働指針ができて、中学校区単位に地域が関わって子どもたちを育てていくというところに通じていくではないかと思う。今日出されたことについては4回目のほうにまた出させていただき、どう揉んでいくかは会長、副会長と相談させていただき、今日の3点を市長報告会にそのまま出させて頂いてもいいのではないかと思います。その辺のまとめは、次回開催の前に会長、副会長、事務局で少しづつしていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

○丸山清副会長

本日使用した「私が考える地域振興」というこのフォーマットだが、可能であれば公益大学のほうで考えたときのこういった考え方をするときのフォーマットが無いか先生に聞く術はないものか。評価するフォーマットや実現可能かどうか等、公益大学ならあるのではないかと。教えて頂けると助かる。

○佐藤支所長

正に今、いろんな行政評価を外部評価するという事で向かっており、今年度は古関先生という先生が、いわゆる私達の地域振興の部分も評価いただく先生である。訊くとすればそこかなと思う。

○丸山清副会長

具体的な点数付けになって点数であれば数字なので分かりやすい。もしくは経済的なからみで、金額でわかるのであれば等切り口はあると思うので教えて欲しい。

(2) その他

■参考資料1 (酒田のアンケート数値について)

▶佐藤支所長が資料を説明

6. その他

○佐藤正一委員

今日、いろんな話が出て第4回目に繋げてという事だったが、第4回目というのはだんだん終りに近い。まとめるためだけの会なのか、それとも、今の活動をみんなで出来ることを何かもう一歩先に進めるという行動を起こすような企画を、支所長がどうやって考えてくれるのか。それとも今の会長、副会長さんがリーダーとなってというような事なのだが、何かできるのではないかと。何もしないで会議して終わって、はい、市に挙げました、というのでは物足りない会なので

はないかなと思、そういうことを考える必要があるのではないかという提案である。

○佐藤支所長

実は去年もそうだったが、今年の皆さんの協議会をなぜこれだけ最初からコンパクトに詰め込んで1回目から4回目まで9月までやろうと思ったかという、皆さんから出て来た意見、こういったことをまず、地域振興といったところのテーマで考えていただいた。そして9月に出た結論に基づいて、次年度6年度以降の地域振興を再構築という部分で皆さんの意見を聞きながら反映していきたいと思っていたところだった。なので、できれば皆さんから上がってきたことを何らかの形にしていけるようにしたいという想いがある。もし4回目で少し形が見えてくるものがあれば、予算がほぼ無くても出来るものとか、あとは行政ではなく、それこそ民間のどこかでできるものがあるんだとすれば、どんどん伸ばしていきたいなと思っている。佐藤委員がおっしゃるように、だ会議をして終わり話をして終わりという結論になってしまうので、何か1つでも形になって実りのあるものにしていきたいという想いがあるので、そこは少し検討させていただきたいと思う。

○佐藤正一委員

実際にデマンドタクシーに乗った丸山さんから、利便性やそういったことの感想をみんなに聞かせてもらえたら、ありがたい。

○丸山清副会長

先週、85歳の母を連れて亀ヶ崎の整形外科に連れて行った。前日に予約して、デマンドタクシーが家の庭まで迎えに来た。やはり、家の庭まで来て家の庭まで送ってくれるというのはありがたい。ただ、7人乗ることになり、私の所から乗って楯山のほうまで戻っていった。途中山谷等いろいろ入って最後は砂越緑町に入って行った。これがなかなか時間がかかる。10人乗りの大きな車で7軒の家をくるくる回って行く、一番最初に行くところは日本海病院。だから日本海病院に行って日本海病院から帰ってくるのはベストだと思った。病院で待つ分にはコンビニもあるし、パンも食べられるし、コーヒーも飲めるし。これが亀ヶ崎の真ん中で降ろされても炎天下のなか辛い。亀ヶ崎小学校前でポツンと降ろされ、そこから歩かなければならない。そこで母はもう歩けなくなったが、自分が背負うことも出来なかったので、なんとか励まして歩いて行ってきた。整形外科が混んでいて、帰りのデマンドに間に合わなくなった。午前中最後が11時30分、その後は午後2時まで無かった。それまでは待ってられず、だんだんおなかも空いたがああ周辺には昼食を取れるところも無かった。るんるんバスでイオンに行こうと思ったが、るんるんバスの乗り場が分からなく、結局は妻が迎えに来た。皆さんが感じるとおり、平田の人が7人も乗っていたし、家まで迎えに来て家まで送ってくれるという点では良いかなと思った。それから割引になる回数券があり、2,000円分を1,500円で買える。25%減だと次にそれを使えるので、目的地が日本海病院だったらおすすめしたい。時間が細かく刻まれていないという事と、2時間前までに予約をキャンセルしないとキャンセル料がかかるが、1時間前くらいでも何とかなるのではないかと思った。

○佐藤支所長

現在、デマンドタクシーのアンケートも実施しているので、そういった声も是非アンケートで答えて頂きたい。

■事務連絡

▶車賃の支払いの事務連絡

7. 閉 会

▶丸山清副会長閉会